

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-61892

(P2005-61892A)

(43) 公開日 平成17年3月10日(2005.3.10)

(51) Int. Cl. ⁷	F 1	テーマコード (参考)
GO 1 T 1/18	GO 1 T 1/18	2 G 0 8 8
GO 1 T 7/00	GO 1 T 7/00	

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号	特願2003-289734 (P2003-289734)	(71) 出願人	000004097 日本原子力研究所 千葉県柏市末広町1-4番1号
(22) 出願日	平成15年8月8日(2003.8.8)	(74) 代理人	100089705 弁理士 社本 一夫
		(74) 代理人	100076691 弁理士 増井 忠次
		(74) 代理人	100075270 弁理士 小林 泰
		(74) 代理人	100080137 弁理士 千葉 昭男
		(74) 代理人	100096013 弁理士 富田 博行
		(74) 代理人	100092015 弁理士 桜井 周矩

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 放射線検出器用圧力容器システム

(57) 【要約】

【課題】 従来の抵抗減衰方式位置検出型放射線センサーでは放射線の検出位置情報を得るため、放射線センサー素子の検出ワイヤ数またはストリップ数に対応した多数個の直列抵抗列を通して、センサー素子から出力される極めて微小な信号パルスを減衰させて出力する必要がありS/Nの低下が避けられないこと、さらに、パルス波高値変動を少なくするためにセンサー素子から出力される微小電流パルスをアンプ回路により数マイクロ秒の時定数で十分な積分をする必要がある結果、信号パルス幅が広がり、高速の計測、即ち広いダイナミックレンジの実現などに課題があった。

【解決手段】 電離ガスをを用いた圧力容器を必要とする多次元位置検出型放射線検出器において、装着された多次元放射線検出素子から数10チャンネル以上の多チャンネルで出力される微小且つ高速電気信号パルスを個別に減衰及び遅延無く、圧力バウンダリーを介してダイレクトに多チャンネルアンプ基板に伝送する構造を有した放射線検出器用圧力容器システムを提供する。

【選択図】 図1

